

令和2年10月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

白ネギにおけるシロイチモジヨトウの防除対策の徹底について

9月中旬の巡回調査において、北部地域で白ネギにおいてシロイチモジヨトウの若齢幼虫や食害痕が確認されています（図1）。北部振興局で実施しているフェロモントラップ調査では8月20日以降誘殺が確認され、交信攪乱剤の効果が弱まっていると考えられます。

本虫は高温乾燥で発生が助長されます。1ヶ月予報（9月24日・福岡管区気象台発表）によると、気温は平年並(40%)、降雨量は少ない(40%)と予想されていることから、本虫の多発が懸念されます。

圃場内でのシロイチモジヨトウの発生状況に注意し、防除の徹底をして下さい。

- 【作物】 白ネギ
【病害虫】 シロイチモジヨトウ

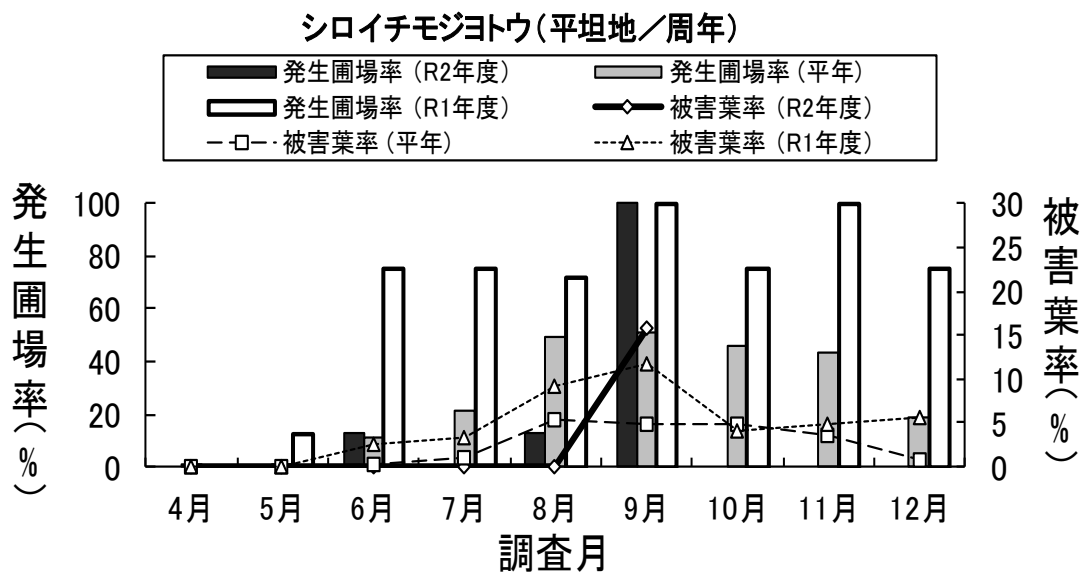


図1 平坦部白ネギでのシロイチモジヨトウ発生推移

防除上の注意事項

ア 薬剤感受性が低下した個体群が確認されており、散布後に防除効果が認められない場合は使用を控える（表1）。

表1 白ネギシロイチモジヨトウの各薬剤に対する感受性調査結果（2006, 2017, 2018大分）

IRAC	系統名	薬剤名	補正死虫率（%）			農薬に対する感受性
			2006年 ¹⁾	2017年 ¹⁾	2018年 ²⁾	
6	マクロ	アフーム乳剤	100	100	100	高い
5	スピノ	スピノエース顆粒水和剤	92.2	100	100	
13	その他	コテツフロアブル	95.3	100	100	
un	その他	プレオフロアブル	81.5	100	100	
5	スピノ	ディアナSC	-	100	100	
6	マクロ	アニキ乳剤	-	100	100	
28	ジアミ	ベネビアOD	-	80.1	100	
15	I GR	カスケード乳剤	20.6	33.1	3.3	低い
28	ジアミ	フェニックス顆粒水和剤	98.9	21.1	0	
28	ジアミ	プレバソンフロアブル5	86.7	12.2	0	

※補正死虫率 = (対照生存虫率 - 処理生存虫率) / 対照生存虫率 × 100

※ 1)豊後高田市3地区平均値、2)豊後高田市1地区値

イ 本虫は農薬に対する抵抗性を獲得しやすいため、同系統の薬剤を連続して使用しない。また、地域が一体となって散布薬剤の見直しや同時期での一斉防除、交信攪乱剤の導入等に取り組むことが重要である。

ウ 交信攪乱剤の効果は3か月前後で減少していくため、設置して3か月が経過した際には圃場内での発生状況に注意する。

エ 本虫が葉身内に侵入すると防除効果が著しく低下する。葉身内に侵入する前に防除を行う事が重要である。

オ 散布時は展着剤を加用し、十分な薬液量（ラベル記載内容の範囲内）で丁寧に散布する。

カ 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」（<http://www.jppn.ne.jp/oita/>）を参照する。なお、薬剤によっては、指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに従って使用する。

ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita>

